

第1回 尼崎市都市計画審議会公園緑地分科会 会議録

1 日 時 : 令和8年3月16日(月) 13:30~15:30

5 議事記録

○尼崎市みどりのまちづくり計画の進捗について

・資料1~3について

委員 気になった点が三点ある。
まず、これは感想だが、公園の地域自主管理について、清掃や除草だけでは仕事をお願いしているにとどまり面白くない気がする。例えば、芦屋市ではワニやゾウなどの小さな遊具を幼稚園のみんなで塗ったり、公園の遊具をみんなで選んだり、そのような機会を通じて自分たちが行きたい公園にするという取り組みをしており、尼崎市でもそういう機会を作っていけるといいのかなと思う。
二点目、指定管理について、指定管理者が利用を活性化するというのと、管理経費の縮減を、と書かれているが、管理経費を小さくすればいいという訳ではない。特に最近新しくなった中央公園などは儲けることもできる。
経費をコンパクトにするだけでなく、民間の知恵をお借りして儲けて投資をするということも考えて、より良い公園に更新していくことを意識してほしい。
三点目が、公園樹の維持管理についてだが、いわゆる適正に剪定してきれいにするというだけではなく、放っておくと大きくなって危ないとか、昔からの公園は公園の周囲に柵のように樹木が植わっていることが多く道路にはみ出して邪魔になりどんどん切られる。今は、従来の考え方で植えたものを、来られた方が木陰の下のベンチでゆっくりしたいとか、そういうニーズに合うように少しずつ変えていこうとしている。本数は減っても、残した木を大きく傘を広げて心地よい空間にしていくという風なこと、適正化みたいなことを少し考えてみたらどうか。大阪市では、公園樹と街路樹のマネジメント計画をつくり、どんどん植える時代からの転換を図っている。尼崎市も「量から質に転換」ということを明確に打ち出しているので、植え方等をゆっくり少しずつ変えていくという発想もいいのかと思う。

委員 新聞で西武庫公園の中にある桜の木を順次、植え替えていくという記事を見たが、これは西武庫公園のリノベーションにあたるのか。

事務局 西武庫公園のリノベーションについては来年度から着手予定で、地域の皆さんと意見交換しながら進めていきたいと思っている。まず、桜の木がかなり傷んでおり危険な状況なのでそれらを一旦撤去するという作業が先行するかと思う。桜が枯れている原因が地中の菌類、キノコ類が原因のケースが多いので、撤去後すぐに新しい桜を植えることができず、しばらく養生期間を置く形になるので、当面、桜に関しては寂しい感じになる期間があるかと思うが、その辺は何か工夫ができないか、皆さんと意見交換しながら進めていきたいと思っている。
ぜひそういう機会には参加して頂きたい。

委員 みどりのまちづくり計画でも「識る」ということを前面に押し出している。今の件のように樹木をゆっくりと更新していくという取り組みも、市の考えがわからないと「あれ？」と思われるかもしれないが、事前に告知すれば、みんなでまた一緒に桜を植える等の機会を作ることにも繋がるかもしれない。是非「識っていただくこと」も進めてもらいたい。

・資料4~6について

委員 先日、小学校の授業の一環で近くの公園を掃除することになり、子どもたちと一緒にレジ袋と手袋をはめてクラスごとに公園に行き、最後は大井戸公園に集合した。道中や、植え込みの中まで子どもたちが掃除してくれた。この時に感じたのだが、大井戸公園はこれから綺麗になると思うが、介護施設の方が散歩にこられた時に、車をとめてお年寄りの方が散歩できると良い。以前はウッディという施設があり駐車場もあったが、1台か2台でも良いので車をとめられる場所があれば良い。

委員 今回の検討の中ではどうか。

事務局 新しい図書館ができる予定であり、駐車場の要不要について今まさに議論をしている。図書館としては駐車場が必要と整理しているが、設計や運営については事業者から意見をもらうことにしており、その提案内容にもよる。公園の利用者はおそらく駐車場があると便利だが、一方で、駅前でありコインパーキングについては量的には十分充足している。公園自体の土地も限られており、駐車場にスペースを割くのがよいのか、引き続き検討を進めていく。

委員 車を1台位とめられるスペースにして、予約して利用するという形などはどうか。

事務局 どのように運営、運用するのも含めて検討中である。

委員 図書館には多様な機能があり、ここは公園とセットということをかなり意識された計画になるということで当分科会でも報告されているのではないかと。意見にある利用については想定しつつ、事業の性質上、民間事業者の提案に委ねられるところも大きいので、事務局から今は何とも言いえないことは理解できる。

委員 南の口公園のサポーターは何人位いるのか。どれぐらいの世代の方がいるのか。

事務局 サポーター会議自体は出入り自由で、興味のある人はどなたでも来てくださいという形式なので、続けて参加されている方もあれば、最初の頃来ていて来られなくなった人もおられ、直近では、20人から30人程度が土曜日には来られていた。その中で中心となって動いている方が6、7人居り、この方々はずっと継続して参加されている。年齢的には地域の社協関係の方は高齢の方が多いが、中心になり頑張っているのは40代50代が多い。会議には、赤ちゃんとも来られる方もおられ、20代30代の方も関わっており比較的幅広い年齢層であり、住まわれている方や近所で働いている方も参加されており非常に属性も豊かである。

委員 色々な世代がいて良いと思う。

委員 理想的な構成と思う。住んでいる方だけでなく、近くで働いている方とか。尼崎南部は工場が多く、尼崎の森中央緑地には市も深く関わっている。住民が居ない地域でも、働きに来ている方をどう使うかということもこれからは考えた方がよい。市民の出入りも激しく、昼間居る人と夜居る人と違いもあるので、色々な方の意見を踏まえ、常に使いやすい公園について意見交換が出来ているという気がする。素晴らしい。

委員 南の口公園は賑わいについて主に話し合いされているが、緑や環境についての話し合いはあまりなかったのか。

- 事務局 環境を切り口にした何かをしてみようというのはあまりない。どちらかという公園に主体的に関わってもらうためにはどうしたら良いのかという切り口で、入口部分の楽しい取り組みで人に来てもらい、そこから次の取り組みに引込んでいくという視点の企画や意見が今のところは多い。
- 委員 少し寂しいと思う。
- 事務局 サポーターの方が集まって、実際に公園の日常管理を手伝ってもらうことになるが、お花を植えてみたい等の話があれば、そういう形で植物に親しむ活動も生まれてくる余地はあるのかと思う。
- 委員 資料の最後のページに整備内容があり色々な植栽もされるようだが、何を植えるか、どう植えるかは決まっていますサポーターにもお伝えしているのか。
- 事務局 昨年度、サポーター会議と並行して「公園をつくる会」というワークショップを3回ほど開催し、市から植栽プランの案を提示しご意見をいただきながら植栽の内容を決めていったという状況だ。
- 委員 新規植栽される、ということか。
- 事務局 そうだ。
- 委員 確か「大庄おもしろ広場」の周りにキョウチクトウが並んでいた。「市の花」なので言いにくいですが、豊かな自然環境かというところではなく、キョウチクトウは早期緑化に適した樹種で、非常に強く戦災からの復興の時に先ず出てきたところから確か「市の花」になったと聞いたことがある。新しく整備するときにはまた色々な意見を聞いて考えていただきたい。
それと、遊具を考えると、昔からある公園では真ん中に真砂土のグラウンドと遊具があり周りに柵のように木を植えているため真ん中に影がない。子どもたちも暑いし、最近は保護者と来るとか、未就学児が親と来た時に親はずっと炎天下で立っていて座れるベンチもない、という声もある。利用者の方がセットで来て、子どもが遊んでいるのを横で座って見るとか、お母さん同士がお喋りを楽しめるような環境があると良いと思う。
このように樹木と賑わいとを組み合わせから、自然のことに少し興味を持ってもらうためにはどうすると良いかという話をこれからも続けてもらいたい。
- 委員 公園のリニューアルがどんどん進んでおり、ワクワクするような取り組みもしていると思う。大井戸公園の説明の中で、園内の樹木の巨木化、老木化が課題との説明があったが、大井戸公園に限らず他の公園でもあると思う。伊丹市でもそのような話が出ていた。そういった課題に対してどういうふうに取り組んでいく予定なのか。
- 事務局 具体的にどうしていくかはこれからだが、先ず、新しい図書館の予定地は、元々はフィットネスクラブがあった場所であり、その南側に既存のバラ園がある。このバラ園をそのまま存置するのか、それとも図書館と一体的に使えるような広場にすることが大きな課題である。バラ園の周囲にはかなり大きなクスノキが並んでおり、十分に日が当たらない等バラの生育にも影響が出ていることもあり、おそらく公園南西部のバラ園に集約し、図書館前にはオープンスペースを設ける形になるのかなと思う。そうすると周りの大きな木は整理が必要になってくる。ただ、もともと尼崎には山がなく、山の無いところに山を作ろうというコンセプトで大井戸公園をつくったと聞いており、結構たくさん木が植わっている。公園

自体は成熟した公園であるため大きく手を入れて地形から変えていくことは現実的ではないと思っているが、その中でも、樹冠が完全に干渉しあっているような場合はどちらの樹木を優先していくのかを現場を見ながら間引きしていくことが必要と考えている。

委員 木を切る場合、剪定であっても「木を切るなんて」という反対が出ることもあるが、一番大切なことは利用者の安全性と、その場所によって、例えば、大井戸公園ではバラをもっと大事にしたいからこの木は切った方が良いという考え方もあると思う。何でもかんでも切ったら良いという訳ではないが、切った方が良い場合もある。その辺りはケースバイケースだと思うが、あまり切ることに抵抗せず切るべきものは切るという考え方で進める方が良いのでは思う。

事務局 切る、残す、何れにしてもきちんとした説明が要ると思う。これはこういう理由があるからこの木を切る、こちらの木はこういう理由で残す、ということは、公園のエリア毎に考え方を示しながら設計していきたい。

委員 住民のそのような苦情要望の分析をしていたこともあり、苦情が出て困っている所に呼ばれることも多いが、大体、クレームになってしまう場合は「切ります」ということを伝えている。クレームにならず上手くいく場合は「切ったらこうなります」ということを伝えている。伝える内容や伝え方の違いだけで、結果が分かる感じがある。木は危ない。大きくなりすぎて、腐って幹折れするとか、あと枝が重なって不健康になると枯れて折れてしまう等、あとニレ科の植物は自己剪定といって生理的に不要な枝を自ら切り落とす性質を持っていてそもそも危ない。植物の生理を知っていると危ないと考えることは当たり前のことだが、それが「植物が大事」という気持ちで見ている方々にとっては「悪いことをしている」「すごく健康に見えるのに切らなくても」と感じることもあるので、やはり「識る」という入口からきちんと伝えていくことが大事かもしれない。

委員 南の口公園のことだが、私は近所に住んでおり畑もある。この辺りは昭和47、8年頃に大庄地区はいち早く区画整理を始め、減歩で公園用地や道路をつくった。篠田市長の頃だったと思うが、組合施行ということで我々の村の者が区画整理をしようとした。それが完成した時に記念碑を公園に設置している。数年前にその記念碑を移転するというような意見が市からあり、大庄西中に移転するような形になった。その記念碑とタコの遊び場が全て移転するという話になっていたが、それらは全て移転してくれるのか？

事務局 碑はまだ保管しているが、現在検討中である。

委員 まだ決まってないということだが。

委員 このようなことをこの場で言いたくはなかったが、皆さんに知っていただきたいと思った。

委員 過去の考え方、今の考え方、これからまた色々あって私も言いにくいところだが、そういった過去の住民の方のご協力でこういった地域ができているということ自体がまちの良さでもあるし、碑を移すということはよくやることだ。私の実家の周りの公園にもたくさんそのような碑がある。そう言えば小学校の時に壁当て野球していたあれは碑だったとか、子どもはそれぐらいの意識しかないが、実際にいろんな話し合いをして、時には喧嘩をして公園を作ってきた方々にとってはやはり思い入れがある所でもあるし、残すという可能性も十分あるのかなという気もする。一方でこれから使い方を考えておられるので、どこにどう残すの

か残さないという議論をきちんとするということが非常に大事であって、形で残すのか何か違う方法で残すのかも含めてご検討いただくと良いのかなと思う。

委員 新図書館に、囲碁や卓球できるところをつくれないうか。せつかく今まで毎日福喜園に行って皆さんとお話していた方が施設の移転で家にこもられているので心配している。

委員 ご説明にあったように、公園の中に図書館を建てるだけではなく、図書館があるからこんな公園だというような、人がよく集まって、本を借りるだけじゃなくて何か寄れるようなコミュニティー型の公園という形も考えているということで、これから市がこんなことも考えてほしいと民間事業者に言うのか、民間事業者からの自由な提案を求めるのかはまだ詳しくは分からないと思うが、市として何か考えていることはあるのか。

事務局 福喜園は老人福祉施設だったが、ご高齢の方対象の限定的なものにはなりにくいのかなと思う。図書館もそうだが、大井戸公園や芦原公園のリニューアルも、世代交流ということはずっとテーマしており、若い子育て世帯だけでなくもっと幅広い皆さんが来られて、来れば誰かと交流できるというようなコンセプトを常に念頭に置いて制度設計を進めている。大井戸公園について、従前のような、卓球台があり、囲碁や将棋ができるこじんまりしたスペースという形にはなりにくいのかも知れないが、新しいスペースは、皆さんが色々なことに使えるような形で設計していくと思うので、新しくできたものをどう使うか、みなさんのご意見を聞く場をこれまでのタウンミーティングのような形で設けると思う。自分たちは新しい図書館や新しい公園でこんなことをしたいということをしっかり発信していただきたい。

委員 また意見を聞いていただけるのか。

事務局 はい。

委員 今、大井戸公園では屋外で将棋や囲碁をされている。ああいう方たちは公園が新しくなっても屋外ですか？

事務局 少し軒のあるところや、雨が当たらないところでやりたいという話もあるかも知れない。新しい施設でこんなことがしたい、こんなことができるというようなことを意見としてしっかり言ってもらえれば、最大公約数的なものにはなると思うが、意見をまったく聞いてもらえなかったということにはならないと思う。

委員 わかった。

委員 国内でも国土交通省が、高齢者の施設や保育園と隣接している公園は相互に自由に行き来できるようにして、今までは管理面があるからと柵をしていたが相互に行き来できるようにして、例えば躓きにくいような公園にしてみたらどうかとか国が進めるような時代でもある。意見にあった卓球や将棋は国内でもよく聞くようになり、海外では従前から当たり前で、チェスをしたり、卓球台も硬くてどっしりとした物を置いていることもある。風が吹くと球がすごく曲がるが、それも楽しみながら、どうせ集まって何かするなら屋外の方が気持ち良いなら屋外でやってみようというような考え方もある。もちろんすべてが実現はしないと思うが意見を聞いてもらえる場があるかもしれないということなので、その時にはお友達も誘ってご参加いただきたい。

- 事務局 できれば、こんなものが欲しいとか、こんな風にして欲しいではなく、例えば子どもに将棋教えられるよ、卓球を教えられるよ、というような言い方をしてもらえると、よりご希望に近いものになっていく可能性は高くなるかと思う。
- 委員 楽しいことはみんなでしましょうということですね。
- 委員 公園によって、例えば、大井戸公園なら女性トレピエが移動するので国際女性デーのミモザなどを植えるとか、阪神の二軍球場のできた小田南公園ならバッドの材料のアオダモをもう少し多く植えるとか。そういう特徴のある木を、場所によって植えていくことも必要ではないか。
それと、樹種をもう少し調べて、根が浅い樹種、根が横へ広がるような木は街路樹には向かない。根の深い木、虫が付きやすい木、二酸化炭素の吸収量が多い木等、樹種によっていろいろな特徴があるが、そういう特徴に合わせた用途に利用していく、植樹していくことが大事ではないか。桜は根が浅いため、先日、東北で怪我をした人もいた。寿命の短いもの、長いもの、いろいろ木によって特徴がある。それらを把握した上で植えていくようにすると良いと思う。街路樹でも、根が浅いものを植えると道路が根で盛り上がり、台風等で倒れやすい等が起こる。その辺りをもう少し考えて植えた方が良いのではないか。
- 事務局 今からリノベーションしていく公園の植栽についてはこれからの話であり、ご意見を参考にしながら進めていきたい。この後、街路樹の取り組みについて説明があるが、街路樹も根が横に広がるような樹種については根上がり等で歩道が歩きにくくなっているという状況も出てきているのはご意見のとおりなので、更新時にはご意見を参考にしながら、同じことを繰り返さないように取り組みたい。
- 委員 芦原公園の再整備計画について、最初のアンケートでは割と屋内プールの成人の方の人数も多く、大型レジャープールの要望があって、結局、大型レジャープールにしたということだが、成人の方々の意見は却下された形だが、皆さんにご理解いただいているのか。
- 事務局 実際、全市民を対象に、Web形式でアンケートしており、ほとんどが30代以上の方からの回答であり、その中で、どちらかというとフィットネスなど健康志向ということで屋内プールが良いとの回答が多かった。
一方、受け皿になる施設が民間も含めて十何か所かあるので、そこでまた屋内プールとなるとイニシャルの投資コストもかかってくるので、大体20億~30億と想定しているが、それだけの投資をして、市が施設をつくるのかについてじっくりと時間をかけて検討した。
その中で、受け皿になる施設があることも非常に大きなポイントであり、コストの面でもイニシャルもランニングコストも屋内プールの場合かなりかかってくるので、その辺りを考える中で、実際のターゲットとしようとしている子どもの意見を十分に聞いていないのではという反省もあり、昨年、実際に市民プールに遊びに来ているお子さんや親御さんを対象にアンケートを行い今の方向性となった。
- 委員 ご説明の中にあつたように、子ども向けの施設をメインで計画は進められると思うが、色々な世代の交流が生まれたり、アンケート時に屋内プールが良いと回答された方もプールはないけれども何か運動ができる設備があったり、中でランニングができたり散歩できたり、というような、色々な世代が集まって来られるような公園になったら良いと思う。この方針案を見ると、子どもが前面に出ており、子どものための公園という風になってしまうので、子どももちろん楽しんでもらうが、もう少し色々な世代が楽しめることがもう少し盛り込まれていると

良いのではないかと思った。

委員 コンセプトの一つ目の「周辺地域と調和がとれた、多くの世代が集い、憩うことができる公園」というのは難しいかもしれないが諦めずに追及してもらいたい。

事務局 面積的にも限られているが、芝生広場や憩いの休憩スペースなど、三世代で交流しうつろいでいただけるというコンセプトの施設にしていきたい。

委員 プールを掘り込んでつくるということは一切せず、基本的に地面である。地面の上にすごいゴムプールを置くというようなイメージで、ちょっとボコボコした感じの写真が簡易大型レジャープールで、海外発のもので、琵琶湖等色々なところで水上も含めてできて、年々、大変複雑な構造になり、昔の阪神デラックスプールに近くなってきたような、夏場だけポンと急に現れる。
梅田のうめきた広場でも、冬場は急にアイススケートリンクがポンとできるが、あのような感じかと思う。季節が終わったら普通の状態に戻る。やろうと思ったら、春、秋、冬、全部やり替えることもできる。
一つの施設にこだわると固定化され、尼崎でも大阪でもプールをつくると冬場もプールのままなのでニジマスを放して釣り場にしたり、水辺という範囲でしか活用できなかったが、かなり活用の幅は広がるはずなので、色々なご意見いただきながら、また、春、秋、冬のご提案も出たら良いと思う。

委員 子育て世代は、夏は北伊丹の西猪名公園にとっても多く行っている。尼崎市には安くて子どもが水遊びできる場所がなく、元浜緑地は小さい子向けなので、北伊丹という話はよく聞く。こんな近くに無料ではないにしてもかなり安く遊べる、水遊びもできる場所ができると子育て世帯とか低学年の子どもたちは大変喜ぶと思う。大人の見解もちろん取り入れてもらいたいのが楽しみだ。
いつオープンする予定か。

事務局 令和 11 年度の夏にはオープンしたいと考えている。

委員 三年後。ちなみにライバルの北伊丹もリニューアルの計画がある。県営なのでおそらく利用料は安いのでは。ただ、北伊丹についても県がつくって利用料 300 円でという時代ではなく、民間事業者が入るとか、それなりに利用料が高くなることは十分考えられると思うが良いことだ。

事務局 少し補足する。先ほど公園計画課長から説明があったが、多世代でという面で、高齢の方からは既存の樹木を残してほしい、休憩できるスペースは確保してほしい等のご意見をいただいている。ただ、今回もともと芦原公園が古く昭和 40 年代から市民プールを設けて、夏場の子どもたちをメインに活躍してきた公園であり、最初のウェブアンケートでも、プールが欲しいという市民のご意見は確認できている。温水プールについては、温水がいいか、屋外がいいかという問いかけを市からした結果、どちらかという屋内がいいというご意見をいただいた。
ただ、市内を見てみると、公設で 3 ヶ所、民間で 11 ヶ所、フィットネス等の屋内プールがあり、他都市に比べると非常に充足している部分がある。一方、先ほど委員の意見にもあったが、子どもが、夏場に水で遊ぶところが、市では元浜緑地のわんぱく池しかないことから、やはり子どもをターゲットにしたいと考えアンケートを取り直した。近年、このレジャープールが非常に人気で、夏場だけ設置し、他の季節はまた違う用途で使える、有効活用できるっていう点も高く評価し、今回の方針を示している。
多世代が子どもばかりではよくない。南側には、芦原公園と同等の面積で、温浴施設や飲食店、レストラン、薬局というショッピングモールのようなものが形成

されていたが、市の芦原公園リニューアルと全く同じようなスケジュールで民間が当該用地を開発しようと考えている。計画時期が一緒なのでその公園も民間敷地も一つの敷地として相互に行き来ができるような形で、相乗効果を出すような計画にできないかと民間事業者と検討を進めているところだ。買い物に来られた高齢の方や大人の方が、ちょっと公園で休んで帰ろうか、とか、子どもと遊んで帰ろうか、というような色んな方に使ってもらえるような公園にしたいとは思っている。

まだ施設案を示した段階であり、来年度から1年半ほどかけて基本設計及び実施設計を市民の方ともタウンミーティングやワークショップを開く中で固めていきたいと思っている。先ほど言われた子どもばかりではなく、他の方々もたくさん来ていただけるような公園になるように設計をしていきたいと思う。

委員 ありがとうございます。

委員 プールについてだが、わざわざ遠いところまではなかなか行けない。以前はプールがあった公園が沢山あったが今は芦原と北雁替しかない。以前プールがあった公園で、先ほど言われたような夏場だけ水遊びができるようにできないのか。

委員 なるほど。他の公園でもできるかもしれない。簡易レジャープールは大型あるが、中型小型もある。これからはいろいろ地域から声をあげて頂けると実現するかもしれない。

○街路樹適正化アクションプラン(素案)について

・資料7について

委員 補足すると、こういったことを報告するときには、課題を挙げどう改善するかについてを説明されるが、尼崎市の街路樹が悪いわけではなく、尼崎市には国道、県道、市道が通っているが、市道が最も維持管理されている。大体、広域行政になればなるほど手が回らなかつたり、調整も難しいなどの事情があり、市道が一番きちんと維持管理されている。その中で、そもそも街路樹が大変悪い環境、植物にとっては過酷な環境の中で、でも沢山植えてきている。40年50年経て無理が出てきており解消しようという提案と理解いただければと思う。

委員 14ページに低木植栽帯の撤去とあるが、高木は残して低木の部分だけ撤去することか。

事務局 路線ごとの実情を見ながらになるが、低木によって狭くなった道路が一定区間続くと、車椅子が侵入したときにすれ違えないということが起きてしまう。高木だけであればすれ違いというのかわすことができるので、実情を見ながら判断をしていく。

委員 よく高木の足元に低木が植わっているパターンがあると思うが、高木は残して低木はとるのか。低木をとった後は舗装で埋める等するのか。

事務局 そうである。

委員 そうすると、地面の出ていた部分が減ってしまい、木にとって水が入る面積が減ること等、環境が変わってきて残した木にとって悪影響があり、例えば雨水が入らなくて枯れてしまうことも考えられる。例えば、舗装材を透水性のものにするなど、残された木のことや環境を踏まえて、変更を検討していただけたらと思う。

- 委員 ちなみに尼崎市はこういった整備関連は道路課で行い、維持管理は公園計画・21世紀の森担当ではなく、すべてを公園計画・21世紀の森担当で、新規整備ではないが、道路の改良も含めた事業を実施されるということか。
- 事務局 道路の改良は道路維持担当、道路管理者がおり、街路樹などは公園維持課に役割分担上お願いしているという形になる。
- 委員 つまり木だけということか。
- 事務局 そうである。
委員から意見のあった歩道の舗装についてだが、尼崎市内は総合治水の考え方を取り入れており、基本的に透水性舗装を採用することにしている。少し化粧する部分にも透水性を持った舗装材を採用するようにしており、その辺りはいただいたアドバイスも参考に整備を考えていきたい。
- 委員 かなり重要な指摘だと思う。根上がりは、地面の下に広く根を張る樹種を選んでも、水と空気がないとそれを求めて真横に根を張る。その結果あの様になる。車道の方には絶対に根が張れない。土がカチカチに固められている。歩道にしか伸びるところがなくボコボコになり危ないし、根が片側にしか伸びていないので樹種によりどちらに倒れるかは異なるが危ない。木をどうするかということだけではなく、土の下をどうするかが大変大事になってくるので、よくよく道路の部署と打ち合わせしながら、土木の力を借りてきちんとやるということが不可欠だと思う。
- 委員 来月から自転車の規制が厳しくなる。歩道と自転車道間の低木をきちんと切ってもらわないと通りにくい。
- 事務局 とくに低木が横に張り出していると自転車道を通りたくない、いろいろ要望いただいている。それでお巡りさんに切符を切られたらどうしてくれるのか等、そのあたりは当然、交通ルールを知っていただくのと同時に植栽の維持管理も必要であり、力を入れてやっていこうと考えている。
- 委員 よろしくお願いします。
- 委員 海外で自転車の町と謳っているところは、すべての道を自転車が走ることを想定しておらず、自転車が通りやすい道を一本ごととか三本に一本ぐらいで推奨していき、そこは自転車が通りやすく、その他は車や歩く人や樹木もあるという風にすみ分けをするという形だが、尼崎ではこの密度であの台数の自転車が走ると、道路を選ぶことも難しいと思うが、少し工夫した方がよい。日本は欧米よりも早くから自転車の町なのだが、日本は狭いので工夫するにしてもご苦労されると思うがよろしくお願ひしたい。ちなみに、低木植栽がビュンビュン出てくるから危ないということだが、地被類等、くるぶしとか脛丈とかで這うようなものにするという方法も考えられる。それであれば水が下に染み込む。透水性と言っても、目が詰まって大体5～6年経つと透水性はなくなる。継続的にということであればそういった地被類で、背丈は低く、浸透するところを作ったりとか、あと植物がなくても敷石を敷くことで雨水はどんどん浸透する。色々な事例があるので、研究されたいのではないかと思います。
- 委員 とても細かい話になるが、5ページのところで、特定外来種に指定されている樹種、とあるが、特定外来種というのは兵庫県が言っている言葉なのか。言葉遣い

をきちんとしておいた方がいいかと思う。特定外来生物というと、環境省が、外来種でも一番悪影響のあるもの、ランクを上指定しているものがあるが、それと混同してしまうような気がする。ナンキンハゼは特定外来生物にはなっていないと思う。兵庫県にリストがあるのなら、おそらくブラックリストという形で載っていると思うが、その名称を正確に書いた方が、市民の方にも誤解がないのではないかと思う。

委員 侵略的外来種と混ざっているような気がする。あと、外来種がすべて悪いというわけではなく共存しているのだが、侵略性が高く、ここに植えるだけではなくどんどん広がってしまい他の植物が入れなくなるようなものは、公共事業では使わないでほしいということで、入札などでも特記事項にこれはやめてほしいと書いたりもする。正しく表現ということも含めて資料を見て頂きたい。

委員 16 ページのアクションプランの成果の指標のところだが、成果の指標の項目の一つ目に「住環境が快適だ」と回答した者のうち「建築物や道路がつくりだす景観」をその理由とした人が増えるかどうかということだけで計るということだが、道路や建築物となると、緑以外の建物など道路自体に意識がいかってしまうと思うが、質問の仕方として、街路樹や緑も含めて答えてくださいと指示があるのかが気になった。それがなくおそらくそれを意識せず、ただ、道の通りやすさとか、建物の高さということだけで答えてしまい、成果指標が現れないと思うのがいかがか。

委員 こういう事はよくある。別途アンケートを取るのが難しいので総合計画に今ある質問で置き換えるということをするとうなる、というパターンのような気がするが、どうか。

事務局 案の段階だが課題かなと思っており、別の指標など、指摘いただいた課題の内容を解決できる方法があるのかも含めて正案化までには整理したい。

委員 自然環境や街路樹、公園、公園樹ということが伝われば良いということと、もう一つは景観なのかということ。住環境が快適であるというときに、景観で見ている訳ではなくて、おそらくこれからは、特に木陰があり過ごしやすいということの方が、街路樹に求められ、管理方針にも関わってくる。とにかく葉っぱが沢山あるというのではなくて、樹冠、木の冠ですね、クラウンというものを最大化することが街路樹業界で今頑張ろうとしているところであり、行ったことに対してダイレクトに住環境に繋がることがあるので、そこをきちんと聞けるのが一番いいのかなと思う。

委員 15 ページの甲子園筋の写真があるが、2 年前位に上手くいき、国交省の優良事例などとしてもよく使われるのだが、また、あれはおかしいということを揉めて、もう 1 回やり直しになっており、そのワークショップを昨日していたが、5～6 回行ってようやく最終回でまとまった。つまり、市民からの要望とか街路樹のことは適正化をしていくが、はたして住む環境ですっと継続して維持できるのか、落ち葉問題を含めて、木のことをどうするのかという適正化に関連して、どうすれば理解されて続けられるかという社会的な要因をどう解決するかということは、尼崎市でもワークショップなど、できれば公園と一体的に行っていくと良いという気がする。

二つ目は今の話と関連して、制度的な要因や問題もある。今までは 1 年間で、この路線、つまり同じ木が並んでいるので、安いものが入札されることが多く、そうすると業者もできるだけコストを抑えて、1 年間で切ることにしか考えられない。でも今は、神戸市などでも協力したが、3 年間で区単位でなど、尼崎であれば兵庫

地区などで、街路樹を管理することをお願いすると、3年間でどう育てるかということを考える。少ない予算の中でも、発注の仕方、制度をうまく利用出来れば、公園とセットにすると、より住環境がよくなるかもしれない。道路がよくなるのではなくて、住環境がよくなるかもしれないという工夫もあるので、こういった適正化をより良くしていくためのハウ、何をするかというワットだけではなく、どうしたらできるのかというハウの部分も合わせて考えていくと良いのではないかという気がする。ここで意見をいただいても良いが、行政の方がプロで行っているので、行政の方で検討いただけると非常によい。

・資料1～7全体を通して

委員 冒頭に触れたが、このまちづくり計画を我々が実行する立場である。市から説明と報告があったのが、基本方針1の「みどりでまちつなぎ」の説明、報告だったが、緑化公園協会は、基本方針2の「みどりで人つなぎ」を、市と連携して、あるいは主体的に取り組んでいるので、その報告をしたい。「みどりで人つなぎ」の施策の方向性でいうと、緑に関心がない、または関心の薄い人を、緑に関心のあるステージに引き上げ、ここで関心を持たれたことを、次は実際に行動するというところで、花のまち委員会の委員や環境オープンカレッジの委員などがステージ2からステージ3におられる方だと思うが、我々もそこを意識して講習会等のプログラミングをしている。特に、ステージ0から1に引き上げるといふところに力をいれており、例えばカルチャースクールなど、具体的には世界の食と文化を紹介する講座、それから日本古来の行事植物を紹介する講座などに緑を絡めて1年通してシリーズで実施している。また、夏休みの自由研究に役立つような、親子で参加してもらおうワークショップ形式の教室も年間通してシリーズでやっている。公園や「緑の相談所」に初めて来てもらう人を増やしていこうという考えで、このような講座を開いたところ、初めて来る人が増え、そこからリピートされる人も居り、取り組みとして進めている。もう一つ違う観点から、市とで共同で行っている「フラワーガーデニングコンテスト」という、昔からある花壇コンテストあるのだが、緑が目に触れる、緑視率を高めていくという観点から、人の目につく花壇を対象にしてコンテストをしてきたが、2年前から、尼崎市の住宅事情なども考慮し、ベランダ、インドア部門という目には触れない場所でもコンテストに写真で応募できる部門をつくり、ステージ2の、家の中で「行動」されている方についても広く発信し、ステージ2からステージ3の「拡散」に移ってもらえるのかなと思っている。基本方針2の取り組みは、多額の資金を投入して公園整備をする事業と比べると大変地味な取り組みだが、そのあたりもコツコツと進んでいるということを報告する。

委員 ありがとうございます。

委員 芦原公園のプールの資料を拝見してとても楽しそうであると思う。屋外プールもそうだが、屋内プールも作るのにとってもコストがかかるので、現実的なことを考えると非常にいいアイデアだと思う。屋外プールは夏季限定であり、それに加えて、最近では高温が続き夏場でもすぐに閉鎖しないといけいようなプールも多いので、非常に柔軟に対応できる簡易大型レジャー施設だと思う。資料の写真をみると、スライダーや泳げるプールもあるが、更衣室はどうされるのか。

事務局 更衣室については、公園の中に管理棟と一体的な形になると思うが、整備しよう

と思っており、今はまだ構想段階だが、簡易レジャープールを置く場所を人工芝のグラウンドのような形にして、年間通じて利用していただく予定であり、グラウンドを利用される方も使えるような更衣室を整備できればと考えている。

委員 印象的で良いと思ったのは、芦原公園の再整備である。あそこは夏場、コロナ前はとても子どもさんに人気があり、最近では利用できなくなり寂しい。ないと寂しいと思っていたが再整備されるということで良かった。北雁替公園にもよく通るが、あそこも子どもさんにとっても人気なので、やはりプールがあると良いと思う。

委員 南の口公園の情報を見て、「新南の口公園を使いこなす」とあったが、「公園を使いこなす」というのはとても大事だと思う。私も色々な公園で積み木のワークショップをしたり、花を育てて、その花で染物をさせていただいているが、南の口公園に色々な方が集い、地域の人たちと一緒に一体感をもって取り組まれ、維持されていることは素晴らしいと思う。こういう公園が、尼崎のまちの中にどんどん増えていけば良いと思う。人間だけではなく、そこにやってくる色々な動物や野鳥、また、犬連れで公園を訪れて、楽しい時間を過ごすというような公園が沢山できれば良いと思う。

以上